



TITLE:

# <自主活動紹介>京都府政策提言ゼミ

AUTHOR(S):

永田, 麻理恵

---

CITATION:

永田, 麻理恵. <自主活動紹介>京都府政策提言ゼミ. 公共空間 2014, 13: 59-60

ISSUE DATE:

2014

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/197692>

RIGHT:

## 【自主活動紹介】

## 〈京都府政策提言ゼミ〉

京都大学公共政策大学院では、学生たちが自らの目的意識に基づき、様々な自主活動を展開させている。この記事では、そういった自主活動についてご紹介していきたい。今回採り上げるのは、九期生の佐藤君が立ち上げた「京都府政策提言ゼミ」である。この活動はインタビューの後、京都スタジアムの付属施設案に関する提言を完成させ「第十回 京都から発信する政策研究交流大会」に参加、日本公共政策学会賞を受賞するという実績も挙げている、今後期待の自主活動である。

## 京都府政策提言ゼミが、どのような活動内容か教えてください。

平野 光友 「京都府議会議員や京都府の職員の方に、京都府が抱える課題についてインタビュー調査を行い、府に解決策を提言する活動を行っています。これらの活動の根底には、公共政策大学院で学んだことを何かに活かさないかという想いがあります。せっかく京都に住んでいるので、京都のために何か貢献で

きないかと考え、京都府を対象としました。」

## 京都府の数ある政策課題の中で、今年取り上げたテーマはなんでしょうか。

平野 「現在、京都府亀岡市において『京都スタジアム』というサッカー専用スタジアムの建設計画が進行していますが、建設にあたっては様々な課題が指摘されています。課題の一つに、サッカーの試合が開催されない日にどのような人を集めるかというものがあり、今年はこれをテーマに活動しています。具体的には、スタジアムに付属施設を設けることで試合のない日でも人が集まれる環境作りができないかを検討しています。亀岡市で実際にアンケート調査を行った結果をもとに、どのような施設が望ましいか、どのような活用方法が考えられるかを模索中です。」

## これまでどのような活動をしていましたか

佐藤 岳久 「夏休みには、亀岡市でアンケート調査を行っていました。亀岡市在住の高齢者を対象として、合計三〇〇人くらいの方に協力いただきました。」

夏休みの間は、多くのメンバーが官庁や民間企業のインターンシップに参加していたため、なかなか一堂に集まることできませんでした

でした。それでも、京都に残ったメンバーと東京にいるメンバーで夜遅くにスカイプミーティングを実施し、各人の役割分担を明確にした上で、活動を続けていました。」

## 提案した佐藤さんに伺います。新しく自主活動を始めようと思ったきっかけはなんだったのでしょうか。

佐藤 「直接的なきっかけは、先輩から『既存の自主活動に入るのではなく、自分で立ち上げるのもありだよ』と言われたことです。」

このゼミを作る際に、僕が考えていたことは二点です。第一に、ゼロから自主活動を作り、実際に政策提言を行うという成果を残すこと。第二に、この活動を通じて、各人が自分の強みと弱みを発見し、弱みを克服する中で成長できるような活動にしたいということです。活動内容は厳しいですし、困難なことも多いですが、その分成長につながると考えています。最終的には、この自主活動での経験を糧に将来の進路を切り開いていくことができるばうれいすね。」

次はメンバーのみなさんから、この自主活動に参加した動機と、リーダーである佐藤君の印象について教えてください。

佐々木 和政 「新しい自主活動にチャレンジすることで自分の成長につなげたいと思ったからです。また、純粋に新しいことをやるのは楽しそうだったのもきっかけの一つです。佐藤君の印象は、僕は大学三年生の頃から彼を知っているのですが、思っていた以上に個性的な奴でした。もう少し普通の人かなと思っていたけれど…」

鷹井 菜央 「先輩たちが行っている自主活動にも興味はありましたが、やはり自分たちで新しい活動を作り上げるのが楽しそうと思ったからです。佐藤君については、とにかく不思議なことをする人だなという印象です。でも、ミーティングではリーダーシップを発揮してくれるおかげで、様々なことがとても早いスピードで進んでいくので、おかげで半年間楽しく活動させてもらっています。」

石丸 明穂 「参加のきっかけは、新しい自主活動ということで真っ白な状態から始められること、その過程で様々な能力が身につけられると考えたためです。また、これまでの自主活動は街づくりをテーマにしたものが多く、自分の関心とは少し異なっていたので、新しい自主活動に参加することで自分の関心も広がるだろうと思いました。」

佐藤君の印象は、ミーティングの際にアジェ

ンダやシナジー等の横文字が多く、ちょっと胡散臭いかなと思いますが、それでも毎回懸命にみんなをまとめようとしてくれるので、会議もスムーズに進んでいます。」

平野 「以前から、一から新たな組織を立ち上げたいと考えていたこと、単純に新しいことをしてみたいと思ったことがきっかけです。また、この自主活動だけをやるのではなく、他の自主活動を掛け持ちしながら様々なことを学び、自分を成長させたいとも考えていました。」

佐藤君の印象は、まあ早口かな。たびたびメンバーから指摘されていますが、治るどころか悪化する一方のようですね。まあ、頭の回転が速いということだと思いますよ。」

**自主活動を通して成長したと思うことがあれば教えてください。**

平野 「自主活動を進める過程で、他の自主活動をやっている先輩方に意見を伺う機会が多くなります。その中で、様々な考え方や熱意に触れることができたことは、私にとって非常に大きな経験でした。」

佐藤 「あきらめないで頭をひねってみるということがとても大切だなと痛感しましたね。」

例えば、時間と人数が限られる中で数百人分

のアンケートを取らなければならないという苦しい状況でしたが、アンケートの取り方について知恵を出し合うことで、解決策を見出すことができました。常に解決策を探し続け、うまくいかなかったもあきらめないことの大切さを再認識しました。これらのことはどのような職業に就こうとも大事な心構えだと思うので、これらを学べたことが、自主活動経験の宝だと思っています。」

(文責 永田 麻理恵)



京都府政策提言ゼミのメンバーのみなさん